

伴侶の死を乗り越える集い 虹の架け橋

大切な伴侶を亡くされたあなたへ

「虹の架け橋」創刊号 発起人のご挨拶

代表 高橋 勉

拝啓 師走の候、お忙しい日々をお過ごしのことと思います。今年も残すところ僅かとなり、慌しさを感じるこの頃です。

二〇一三年八月、伴侶の死を乗り越える集い「虹の架け橋」は元ほほえみネットワークのワークリーダー4名を発起人として18名の会員でスタートしました。

現在会員数は25名(内スタッフ9名)となり、会員の中から5名の方にスタッフとして活動してもらい、また心強さを感じていると共に大変感謝している次第です。

私自身4年程前に家内を亡くし、ほほえみネットワークの門をたたきました。

そのおかげで元気をいただきワークリーダーとして参加させていただきましたが、伴侶を亡くした私達と同じ経験をされた方の為に同じ体験者同志で悲嘆を共有し支え合い安心できる場の必要性を感じ「虹の架け橋」が発足しました。

これから死別間近な方や会員の方のグリーン・サポートに対してボランティアとして社会的な役割を果たしていかなければならないと

考えています。

辛い気持ちになったら何時でもふれあいの場として談話室、イベントに参加いただきたいと思えます。

また私たちは「相互扶助」という、会員同士の助け合いを目指していきたいと考えています。

年の瀬の前に、ご多忙と存じます。どうぞお体を大切にお過ごしください。

来る新年が素晴らしいものであるように、心よりお祈り申し上げます。会員の皆さんが安心できる「虹の架け橋」となれるように一号発行の挨拶とさせていただきます。

副代表 菅原 倫子

昨夜二時過ぎ、福島県沖でマグニチュード7.1の地震がありました。

東京では震度3でしたが、随分長い時間に思えました。もうすぐ治まるだろうかと、電気をつけようかと迷っているうちにようやく揺れは治まりました。

「ねえ、大丈夫かしら？」

「治まるんじゃないか？大丈夫だよ。」夫が居た時はすぐにでも起こしてこんな会話をしていたように思います。何の根拠もない「大丈夫だよ」という夫の言葉ですが、今までどれだけこの言葉に安心を貰ってきたことでしょうか。今年も災害の多い一年でした。

昨夜のように不安な夜を過ごさなくてはならなかったり、その他にも夫の役割の肩代わり、経済の不安、妻から寡婦へ、夫婦単位の交際の消失等、独りであることを思い知らされていると言っても過言ではありません。このような日々を過ごす内に夫の居ない生活が今の自分の現実なのだ、と観念するこの頃です。

四年前に「虹の架け橋」の前身である分かち合いの会に参加していた頃、私は毎回涙と鼻水でまともに話すことすら出来ませんでした。

思うように話せなかったことは機関誌に投稿していました。聞いてくれる人、読んでくれる人がいることを頼りに、自分の心情を言葉と文章で紡いでいったのだと思います。

幸福の様は「色」であるが、悲しみには様々な形相があると言われます。私達の伴侶を亡くしたという思いは悲しいけれど、大いなる共通の思いです。一人では胸に治めきれない思いを話してみませんか。

共感を持って聞いてくれる人がきつというはずですよ。

副代表 須藤 美代子

この「虹の架け橋」を立ち上げて4カ月となります。元ほほえみネットワークの方が多数入会して下さったお蔭で順調な滑り出しと言っても過言ではないと思っています。

3年前の年の瀬に主人が逝ってしまつてから、自分の身に起きたことが受け入れられず、このままではどうにかなくてはまいそう、色々な分かち合いの会に参加したり、

グリーンについて講習会に行ったりしながら、このグリーンに携わっていく事で何とか生きていけるかも・・・と思うようになりました。

まさか、自分で作ってしまうとは思っていなかったのですが、幸いにも3人の同じ気持ちの方達に恵まれ、元ほほえみの方の温かい応援に励まされ、そして主人を喪った悲しみこそが力となり、ここまで出来たことに深く感謝しております。

また、新規の方は2名と少ないのですが、私達と同じような体験をしてしまった方々と共に支え合いながら、会員の方全員の心に、いつか灯りが点ることを願っています。

至らないこともあると思いますが、宜しくお願い致します。

★発行者 「虹の架け橋」事務局
★編集 「虹の架け橋」広報委員会
★連絡先 〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス第37号 虹の架け橋

★[ホームページ]
<http://www.nijinokakehashi.info/>
★[メールアドレス]
info@nijinokakehashi.info